

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	大阪府
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	高石市立清高小学校									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計	教員数	
学級数	2	3	2	2	2	2	2	15	23	
児童数	68	82	70	76	78	63	6	443		

研究の概要

1. 研究主題

一人一人の子どもを見つめて
 —— 複数教員による指導の向上をめざして ——

2. 研究内容与方法

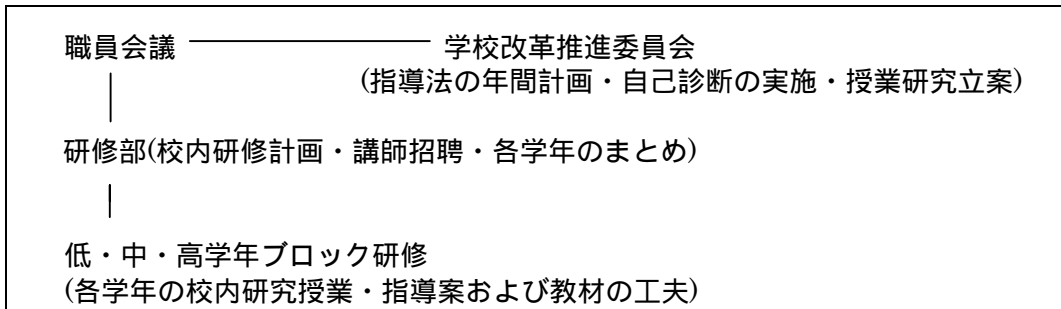
(1) 実施学年・教科

- * 実施学年及び教科を選択した理由を記すこと。
- ・ 3・4年生・算数(基礎基本の充実)
 児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。
 - ・ 5・6年生・算数(基礎基本の充実や発展的な学習を取り入れる)
 単元により、理解の状況に個人差がでやすいため
 - ・ 5年生(後期)6年生(前期)・理科、家庭科、音楽(または情報教育)の3分割
 少人数制授業
 これまでの研究成果と児童・保護者に対する実態調査の結果より続けて実施
 - ・ 3～6年・交換授業
 これまでの研究成果と児童・保護者に対する実態調査の結果より続けて実施

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「算数科における確かな学力をつけるために」 研究の見通し 生徒指導や実験・実習教科の指導上から生まれた複数教員による指導体制(交換授業や少人数制授業)を算数科の教科学習における学力向上をめざす指導方法にも工夫改善していく。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導方法、指導体制の工夫改善 ・ 補充的、発展的学習のための工夫と教材の開発 ・ 少人数による分割授業実施時の教室の学習環境の整備 ・ 小中連携の一環として同校区の高南中学校と「いきいきスクール」を実施 ・ 公開授業や協議会などで研究の成果を発表する。 ・ 保護者への啓発活動を行う。
平成16年度	<p>テーマ 「算数科における確かな学力をつけるために」 研究の見通し 上記のテーマの実現をめざし、下記に示す内容・方法を今年度の反省の上になち、今年度中に計画および体制づくりの確立を行う。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>2年目を迎え、専門の講師を継続的に招聘し全職員が指導を受ける研修体制を確立するとともに、本年度立ち上げたブロック研修で計画的に効果的な指導法・指導内容・教材の工夫を行う。 また、その成果の報告のため、授業研究および協議会を計画する。</p>

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題
1 研究の成果

- A 交換授業(一部教科担任制)
3・4年(社会と理科を交換) 5・6年(算数と国語を交換)
- B 3分割少人数制授業
前期(6年 理科 家庭科 音楽) 後期(5年 理科 家庭科 音楽)
- C T T・少人数
1～6年 情報教育(コンピュータ) T T
3・4年 算数 T T・単純2分割(単元別)
5・6年 算数 T T・習熟度別(単元末) 課題別(6年のまとめ)

3年生は「かけ算」の単元において単純2分で学習を進めた。指導上、個々の九九の習得状況が把握しやすく、個に応じた支援ができた。児童の感想は人数が少ないので落ち着いて学習できる、発表がたくさんできる、練習問題がたくさんできる等おおむね良好だった。

次に「わり算」の単元でも単純2分割で学習を進めた。ここでは、等分除と包含除のグループに分け、後で交代するという方法をとってみた。これは学習内容を児童に認識させ、わり算の2種類の意味をより明確に理解させるには効果があった。

「長方形と正方形」の単元では、児童の実態より、三角定規の直角の当て方や作図の支援・図形の弁別に多くの意見交換を求めたいと考え、一斉授業の形態をとった。その結果、図形に興味関心を持つ児童が増え、友だちのよい所を見つけ、自分の考えを修正し正しい答えを導き出すことが出来たり、自分の考えが他と違っていても自信を持って発表することにより、学習の内容を深めることができた。

4年生では「わり算」の筆算は手順が複雑で児童にとって抵抗感が強い。そのためかけ算100マス・余りのないわり算50問を継続的に取り組み、わり算のつまずきやすい箇所を見つけ支援した。

計算練習では、自分の伸びていく様子がよくわかるので児童は意欲的に取り組み、続けていく中で自信や集中力が育ってきて、今後に見通しを持って学習できるようになった。

「三角形」の単元の敷き詰め学習では、児童が積極的に活動できるように、教室内で興味・関心に基づいて二等辺三角形と正三角形のグループに2分割し、それぞれのグループを教師が支援するという形態にしてみた。その結果、お互いのよい所を参考にしながら互いに刺激し合い個人だけでなくグループで協力して敷き詰めることができ、平面の広がりや一定の決まりに従って形を並べることによって出来上がる模様の美しさを感じ取ることができた。

各学年単年度学級編成なので、5年生はまず学級づくりに重点をおき、算数においては、担任と少人数担当でT Tを行った。また毎授業の始めに100マス計算を行い計算力アップに努めた。その結果一人一人の所要時間が早くなり、正解率も上がった。

2学期に入り、少人数指導を実施した。単元の始めは一斉T T授業を行い、次に少人数指導を取り入れた。一斉授業では問題解決学習を行うことにより多様な考えを出し合える授業が可能であり、単元末に少人数指導を行うのは、その単元のまとめとしてその子にとっての学習課題が解決できたかどうかを確認するためである。小数の掛算は習熟度別で学級3分割コースを児童が選択していく方法をとった。小数のわり算も同様に実施した。

6年も5年同様に1学期はT Tを行った。毎授業の始めに100マス計算やエレベータ計算などで計算力アップに努めた。学期末より「分数の足し算引き算」において学級3分割を行った。(詳細は5年同様)2学期は毎時間のはじめにBGMを流しながら「智恵の板」を行い集中力をつけた。

5年アンケート(1クラス38人)		6年アンケート(1クラス32人)	
・自分のペースで勉強出来る	38	・自分のペースで勉強出来る	25
・計算がたくさん出来てよい	28	・集中できる	24
・集中できる	25	・計算がたくさん出来てよい	25
・時間が有効に使える	24	・時間が有効に使える	24
・楽しい	23	・やる気になる	20
・おもしろい	23	・勉強になる	19
・勉強になる	22	・楽しい	13
・質問しやすい	21	・算数が好きになる	11
・わかりやすい	21	・質問しやすい	9
・やる気になる	17	・わかりやすい	11
・算数が好きになる	17		

2. 今後の課題

算数科の教材研究を深めていく中で、どの単元がより効果的な指導法なのか、また子どもたち自らが算数に意欲的に取り組んでいくにはどうすればいいのかを組織的に深めていくこと。

学力等把握のための学校としての取組

学校診断アンケートの実施 児童(年間2回) 保護者(年間1回)
各単元末に児童のアンケートや感想をとる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

授業研究・協議会 平成15年11月27日 本校にて(参加100名)
資料として「清高の教育」を作成・配布

学校訪問
全国より 32校(37名)来校 ただし11月27日の分はのぞく

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	